

# H班活動報告

## 大槌高校（避難所支援）



2014年7月26日

岩手医科大学附属病院

役割

11-9- サトウ  
7010 タカギ  
記録 ヒライ  
資機材 オザワ  
食料 カワバタ  
通信 クスオカ

# メンバー・役割

リーダー	・佐藤 隼人	国際協力機構（兵庫）事務
クロノロ	・高木 嘉孝	知多厚生病院（愛知）薬剤師
記録	・平井 栄江	東部地域病院（東京）看護師
資機材	・小澤 優貴	亀田総合病院（千葉）臨床検査技師
食料	・川端 美代子	横浜市東部病院（神奈川）看護師
通信	・葛岡 大輔	日本赤十字社（福島）事務

# 避難所までの移動①

(岩手医科大→保健所→大槌病院→大槌高校)



- 高速道路を選択

紫波IC→東北道→釜石道

(一般道は土砂崩れ等の二次災害の可能性が高いと判断)



- 保健所での聞き取り



- 保健所で参集5チームの活動地を調整。
- H班は大槌高校（避難所）に派遣されることが決定。
- 避難者が多く、状況がつかめていないとのこと。



# 避難所までの移動② (県立大槌病院の確認)



現在は少し離れた内陸に仮設の県立病院が建てられている。

- 避難が完了していることを確認。(想定)
- 写真のとおり、現在は跡地となっている。

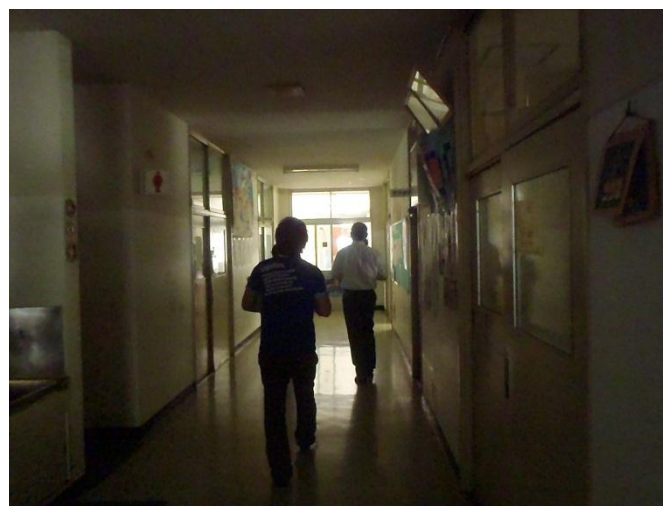


# 活動① 大槌高校での現状把握



## 〈避難所副校長に聞取り〉

- 900名の避難者
- ライフライン×
- 食料・水、毛布、衣服、医薬品等の大幅な不足



## 〈避難者からの聞取り〉

- 赤患者はなし
- 大槌病院から寝たきりの患者50名を受入れ
- 脳梗塞疑い、出産直後の母子が各1名



## 〈校内の視察〉

- 保健室、理科室、会議室等の活用の可能性



# 活動②大槌高校の拠点立上げ



- 体育館は避難者であふれており、学校の中庭を提供される。
- 体育館前に拠点を設置



- 日赤から提供されたDRASHテントを活動拠点として利用。



# 活動③ケアプラザ大槌での現状把握



- 本部からの要請により、避難者が多く、現状が不明のケアプラザ大槌に2名を派遣。
- 老人健康保険施設  
(69床)



- 〈避難所看護師に聞き取り〉
- 700名の避難者
  - 水×（川の水を利用）、自家発電あり、ガス可。
  - 食料・水、燃料は残り2日分あり。



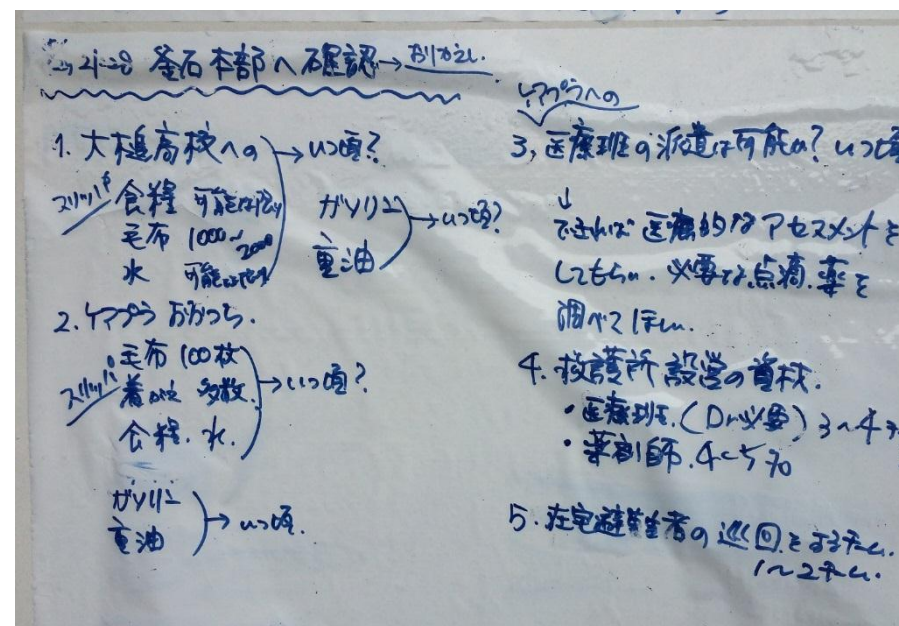
- 大槌病院の点滴施工中患者5名を受入れ中。
- 点滴、医薬品の不足
- 人手不足による避難者状況の把握不可
- 通信手段なし



# 活動④現場対応、支援要請

## 〈大槌高校への支援要請〉

- 脳梗塞疑いの患者の搬送
- 出産後母子の搬送
- 支援物資
- 救護所設営のための医療班 (DMAT) 3～4チーム
- 薬剤師 4～5名
- 在宅避難者の巡回チーム 1～2チーム



## 〈ケアプラザ大槌への支援要請〉

- 支援物資
- 医療班 2チーム (通信立上げ、アセスメント)



# 活動⑤その他活動



- クロノロジー



- ミーティング



- 撤収
- DMAT 1 隊、学生ボランティア 40 名に活動引継ぎ

# まとめ

## 〈良かった点、成果〉

- 明確な役割分担と実施
- 具体的な支援要請
- きめ細やかなクロノロ
- 3K

## 〈反省点〉

- 迅速な情報収集
- 具体的で迅速な要請
- 分隊時のメンバー  
(リーダーの派遣)

コントローラー、現地の協力者の皆様、ありがとうございました！

ありがとうございました！

